

ア  
ナリスト  
レポート

しがきん経済文化センター 志賀 文昭



**県内景気**

現在の景気 生産活動 個人消費 民間設備投資 住宅投資 公共投資 雇用情勢

天気図

凡例 晴れ 晴れ一時曇り 曇り 曇り一時雨 雨

前月比 上昇・好転 横ばい 下降・悪化

## 緩やかな回復基調の中で 足踏みの動きがみられる

### 県内景気の動向

**現状** 県内製造業の生産活動を鉱工業生産指数で見ると、輸送機械や食料品は上昇したものの、鉄鋼や化学などが低下したため、原指数は3か月ぶりのプラスとなったが、季節調整済指数は微増にとどまった。この結果、季調済指数の3か月移動平均値は2か月ぶりに再び前月を下回り、一進一退の推移となっている。

需要面では、大型店の中のドラッグストアが8か月連続、ホームセンターも2か月連続のプラスとなり堅調に推移しており、公共工事の請負件数は2か月ぶりに前年を下回ったものの、金額は2か月連続のプラスとなった。一方、百貨店・スーパー販売額は飲食料品や家電機器が堅調に推移しているものの、衣料品をはじめ身の回り品などが大幅マイナスとなったため、全店ベースでは前月に続きマイナス、既存店ベースでも微増にとどまっている。乗用車の新車登録台数は前月に続き前年を下回り、軽乗用車も3か月連続の大幅マイナス、また、民間設備投資の指標である民間非居住用建築着工床面積は商業用が低水準ながらプラスとなったものの、鉱工業用が2か月連続、サービス業用も3か月連続の大幅マイナスとなったため、全体では4か月連続の大幅マイナスとなっている。さらに、新設住宅着工戸数は持家が3か月ぶり、貸家が4か月ぶりのそれぞれ大幅マイナス、分譲住宅も前月に続き大幅マイナスとなったため、全体では4か月ぶりかつ大幅のマイナスとなった。

このような中、雇用情勢を見ると、新規求人数がすべての業種で前年を上回り7か月連続のプラスとなり、有効求人倍率は前月に比べやや上昇している。

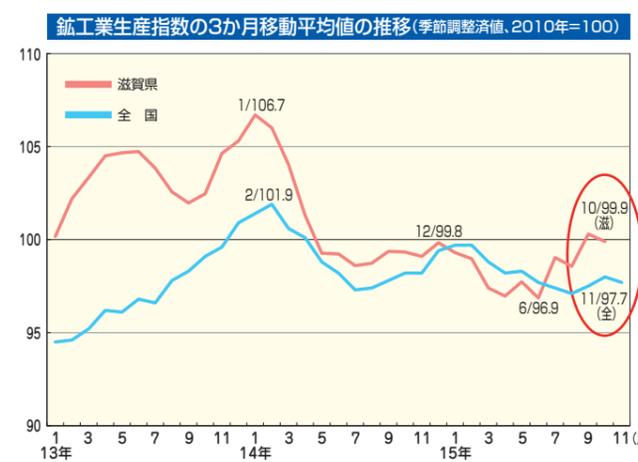
これらの状況をまとめると、製造業の生産活動は全体的に弱含みのなか、一進一退での推移となり、需要面では個人消費の一部で堅調な動きが続いているものの、民間設備投資や住宅投資などで一服感がみられる。したがって県内景気の現状は、一部で伸び悩みや一服感がみられ、緩やかな回復基調の中で足踏みの動きが出てきたと考えられる。

**今後の動向** 県内製造業の生産活動については、中国経済の減速と世界的な原油安の影響から、内・外需ともに弱含みの展開になるとみられる。また、需要面では、個人消費については原油安による消費マインドの改善といった面はあるものの、景気の不透明感、家計収入の伸び悩み、株安に伴う消費マインドの悪化といった懸念材料から、全体に力強さの乏しい動きになると考えられる。また、民間設備投資や新設住宅着工などの投資関連でも先行きの不透明感から全体に弱含みで推移するものと思われる。

したがって今後の県内景気は、緩やかな回復基調にはあるが、上向く材料に乏しいため足踏み状態が長引き、停滞感が強まるものと考えられる。

### 「鉱工業生産指数」(3か月移動平均値)は 2か月ぶりに再びマイナス

2015年11月の県内製造業の生産状況を見ると、鉱工業生産指数(2010年=100)の「原指数」は98.0、前年同月比+3.7%で3か月ぶりのプラスとなったが、「季節調整済指数」は101.0、前月比+0.1%と微増にとどまった。この結果、季調済指数の3か月移動平均値(10月)は99.9、前月比-0.4%と、9月単月の季調済指数の大幅マイナスが影響し、2か月ぶりに再びマイナスとなった。業種別(中分類)に季調済指数の水準をみると、「電気機械」や「化学」「繊維」「食料品」「その他」などは高水準となったが、「鉄鋼」や「窯業・土石製品」「プラスチック製品」などの水準は低い。前月と比べると、「輸送機械」や「食料品」などはプラスとなったが、「鉄鋼」や「化学」などはマイナス。



### 「百貨店・スーパー販売額」(既存店ベース)は 微増にとどまる

12月の「消費者物価指数(生鮮食品を除く総合/大津市/2010年=100)」は103.6で、前年同月比+0.9%、前月比-0.1%となり、前年比では32か月連続のプラスとなっているが、前月比では3か月ぶりのマイナスとなった。また、「可処分所得(大津市・勤労者世帯)」は3か月連続かつ大幅のマイナスとなり(前年同月比-10.5%)、「家計消費支出(同)」も4か月連続で前年を下回っている(同-9.3%)。

このような所得・消費環境のなか、12月の「百貨店・スーパー販売額(全店ベース=店舗調整前、対象店舗数は96店舗)」は25,371百万円、前年比-0.0%と、微減(計算上小数点第二位以下までみるとマイナス)ではあるが前月に続きマイナスとなった。品目別にみると、ウエイトの高い飲食料品(同+1.4%)は31か月連続で増加し、家電機器(同+3.3%)、家庭用品(同+1.2%)もプラスとなったものの、衣料品(同-7.7%)、身の回り品(同-9.6%)は大幅のマイナスとなった。また、「既存店ベース(=店舗調整後)」の売上高は飲食料品(同+1.7%)が再びプラスとなったことに加え、家電機器(同+13.4%)が大幅のプラスとなったものの、衣料品(同-6.9%)や身の回り品(同-9.2%)などが大幅のマイナスとなったため、全体では微増にとどまった(同+0.3%)。

「家電大型専門店・ドラッグストア・ホームセンター販売額(全店ベース=店舗調整前)」によると、11月の「家電大型専門店」(37

店舗)は3,072百万円、前年同月比-6.3%で3か月連続のマイナスと伸び悩んだものの、「ドラッグストア」(162店舗)は4,552百万円、同+6.8%で8か月連続、「ホームセンター」(63店舗)は3,356百万円、同+3.5%で2か月連続のそれぞれプラスとなっている。

12月の「乗用車新車登録台数(登録ナンバー別)」をみると、「普通乗用車(3ナンバー車)」は2か月ぶりのプラスとなったものの(1,370台、前年同月比+2.9%)、「小型乗用車(5ナンバー車)」が2か月連続かつ大幅のマイナスとなったため(1,088台、同-13.1%)、2車種合計では前月に続き前年を下回った(2,458台、同-4.8%)。また、「軽乗用車」は昨年4月からの増税の影響が長引き、3か月連続の大幅マイナスとなっている(1,565台、同-33.0%)。



### 新設住宅着工戸数は 4か月ぶりかつ大幅のマイナス

12月の「新設住宅着工戸数」は585戸、前年同月比-25.4%で、4か月ぶりかつ大幅のマイナスとなった。利用関係別で見ると、「持家」は330戸、同-18.3%(大津市70戸など)で3か月ぶり、「貸家」は161戸、同-25.8%(栗東市48戸など)で4か月ぶりのそれぞれ大幅のマイナスとなった。さらに「分譲住宅」も94戸、同-42.0%(大津市25戸など)で前月に続き大幅のマイナスとなっている。分譲住宅の内訳をみると、「分譲マンション」は5か月連続で申請がなく(0戸、前年差-49戸)、「一戸建て」も前月に続き前年を下回っている(94戸、同-19戸)。なお、「給与住宅」の申請はなかった。

